

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878



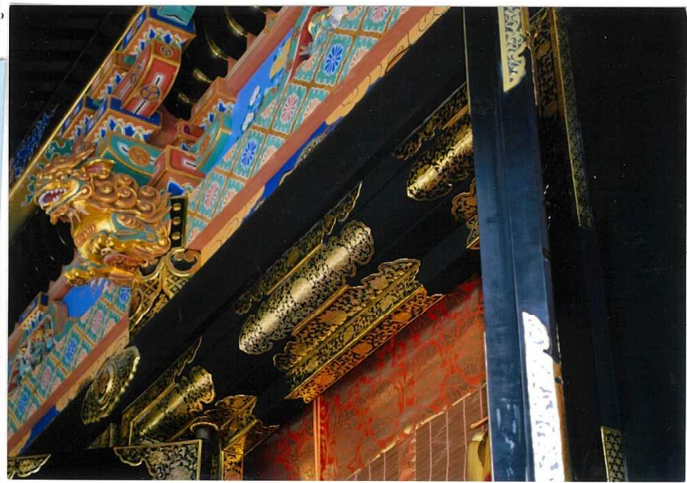
元和三年四月十七日
 (西暦1013年6月1日)江戸から退き十年ほど過した駿府で、大御所徳川家康が薨矣。病床を本多正純、金地院崇伝、南光坊天海が託された遺言通り、

国室
 久能山東照宮
 本殿



遺体は密かに久能山に運られ、通夜も行わず、石田神道の作法で埋葬された。

社殿は翌月から造営が始まり、元和三年十二月に東照社(後の久能山東照宮)として創建。
 東照社は、創建に先立ち朝廷から家康に宣下された「東照大権現」の神号にちなむもので、ここに家康は神として祀られることになった。軸部や軒廻りを黒漆塗で、縁廻りを赤漆塗で仕上げた社殿は、鈔金具や青緑を基調に彩色された彫刻で彩られ、煌びやかな



中にも荘厳さがあり、神の君となった家康に相応しい拝礼空間にこそ、久能山東照宮の社殿は、国室に指定されている。



久能山東照宮における「添石垣」について
 重要文化財久能山東照宮境内の石垣は、元和三年(一六七年)の久能山東照宮造営時に築かれましたが、年を経て崩落の恐れが生じました。このため、天保四年(一八三三年)廟所を建西側の石垣の一部に「添石垣」を設けて、石垣を二重にし、当初の石垣の崩落を抑えました。
 この度の重要文化財久能山東照宮社殿等の修復事業にあたり、一は、境内の石垣について創建当時の景観に復する、としました。後年築かれた「添石垣」は撤去するもの、史跡久能山の歴史を知るうえで、貴重な石垣建構であり、その歴史的価値を後世に伝えるため現在地に移植しました。
 平成十九年三月
 久能山東照宮